

食料支援 ほっとあんしん便 就労生活調査結果

NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

ほっとあんしん便 就労生活調査回答者のプロフィール

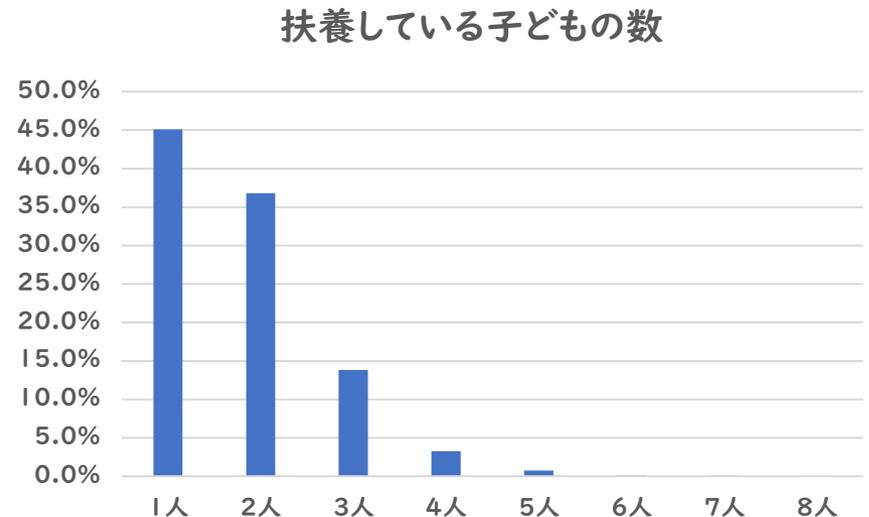
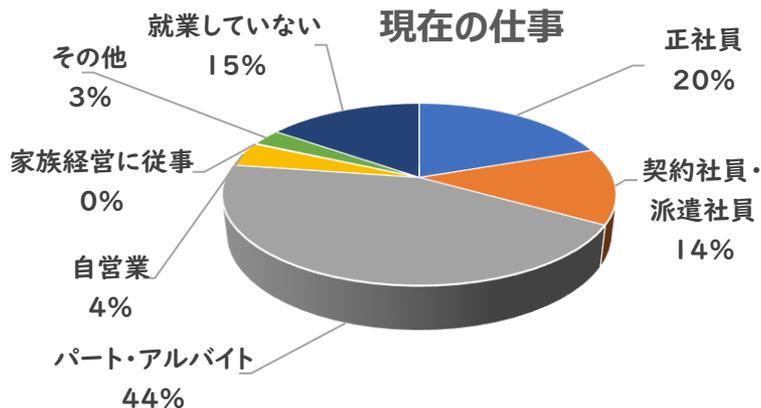
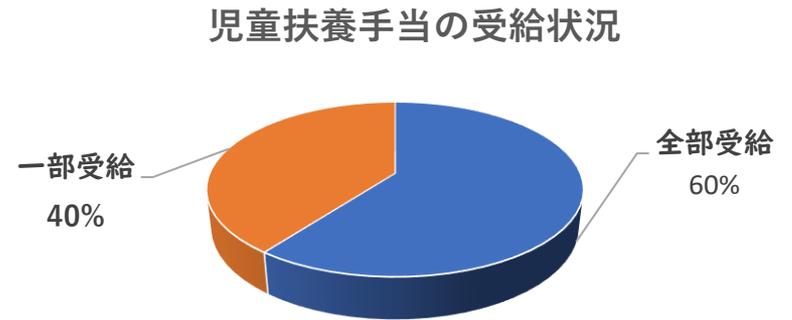
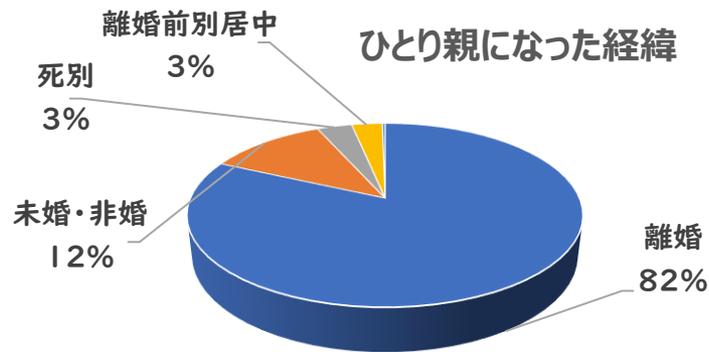
- しんぐるまざあず・ふぉーらむの2023年度食料支援申込時のアンケート回答者
- 回答者数 4307人
- 調査時期 2023年3月24日～ 3月26日
- 調査方法 WEB調査による
- ほっとあんしん便は生活の困難度により毎月、2か月に1度、3か月に1度でお送りしている。

※食料支援申込要件 児童扶養手当受給者あるいは児童扶養手当と同等の所得のひとり親(母子世帯・父子世帯) お子さんの年齢は20歳まで(離婚別居中のひとり親含む) 北海道と沖縄は除く

※本調査は、児童扶養手当受給者等の証明書類提出していただいたものである。

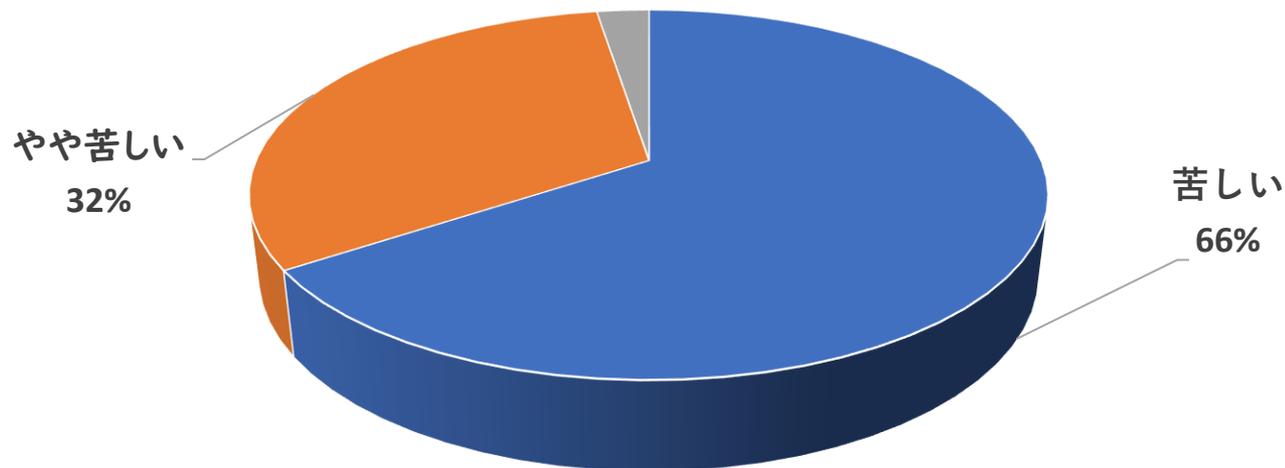
回答者のプロフィール

「離婚」が8割、現在「就業していない」は15%



現在の暮らし向きについては 98%が苦しい、やや苦しいと回答

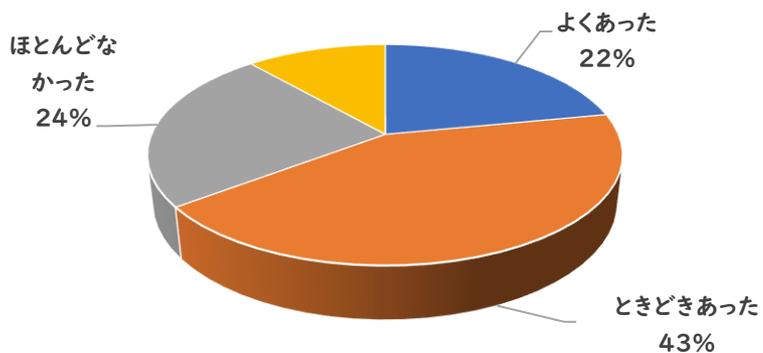
現在の暮らし向きについて



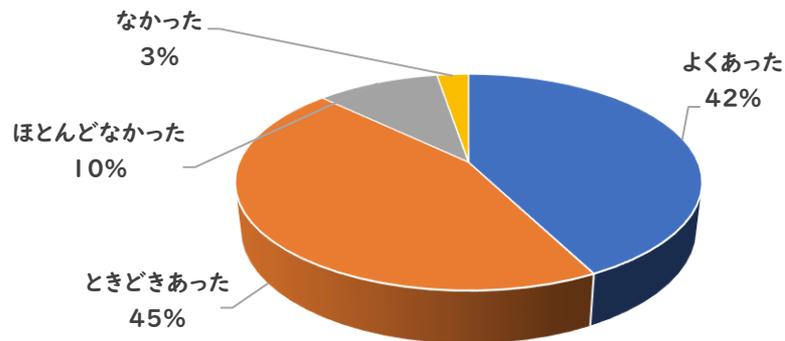
米が買えないときがあった65%

子どもの服や靴が買えないときがあった90%

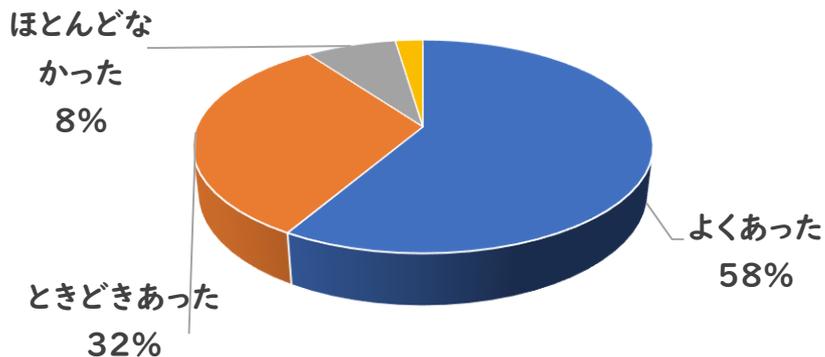
食料(米などの主食)を買えないときがあった



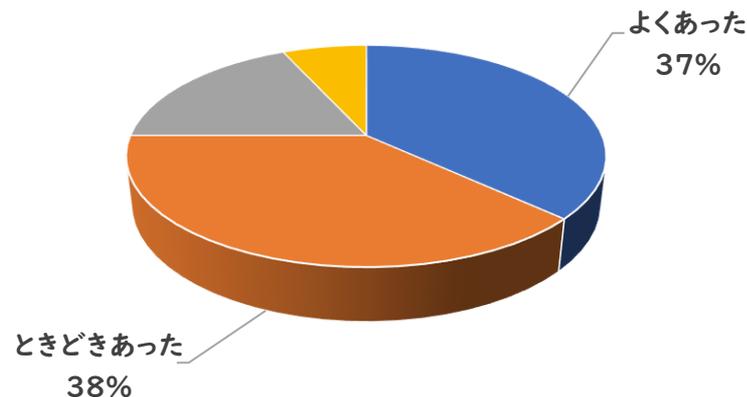
食料(肉・魚)を買えないときがあった



子どもの服や靴を買えないときがあった

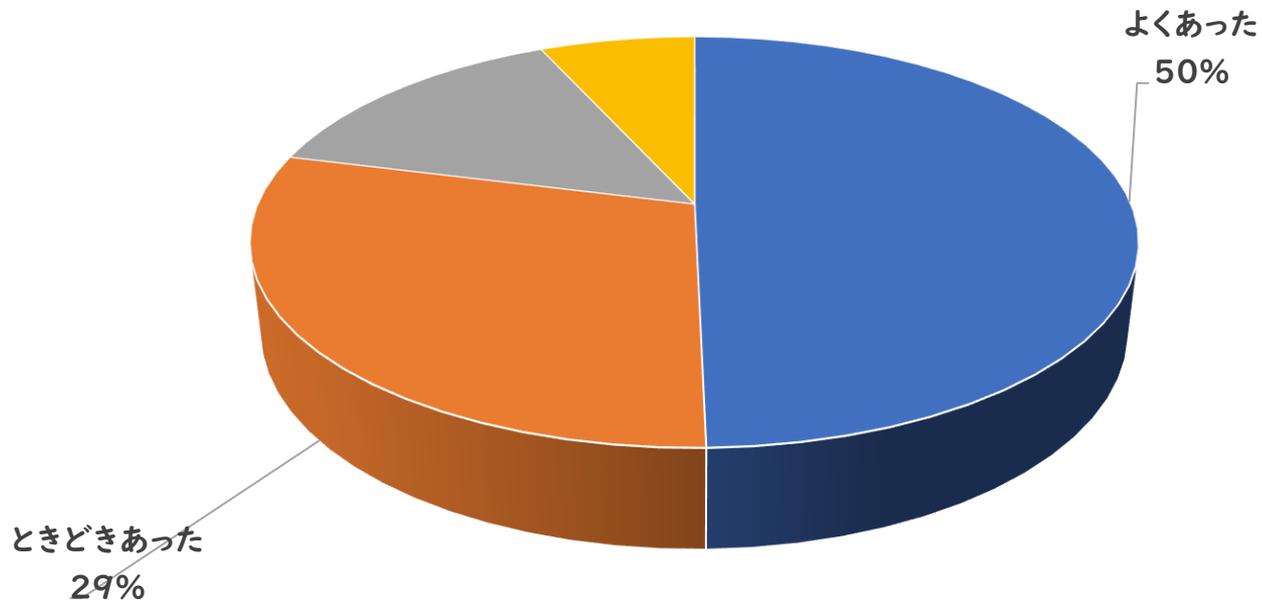


玩具・文具・学用品を買えないときがあった



「親の食事を1食抜かす」8割

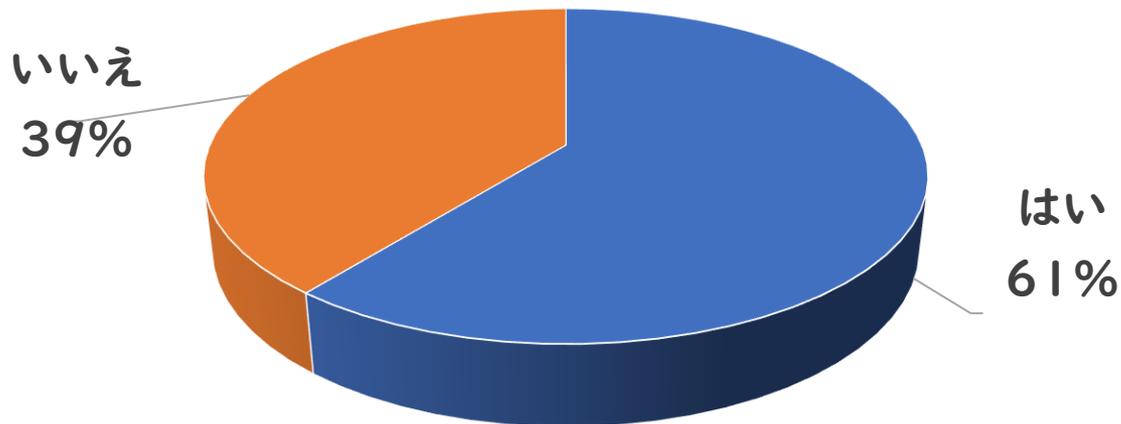
親の食事を1食抜かす



ひとり親の知り合いがいない 39%

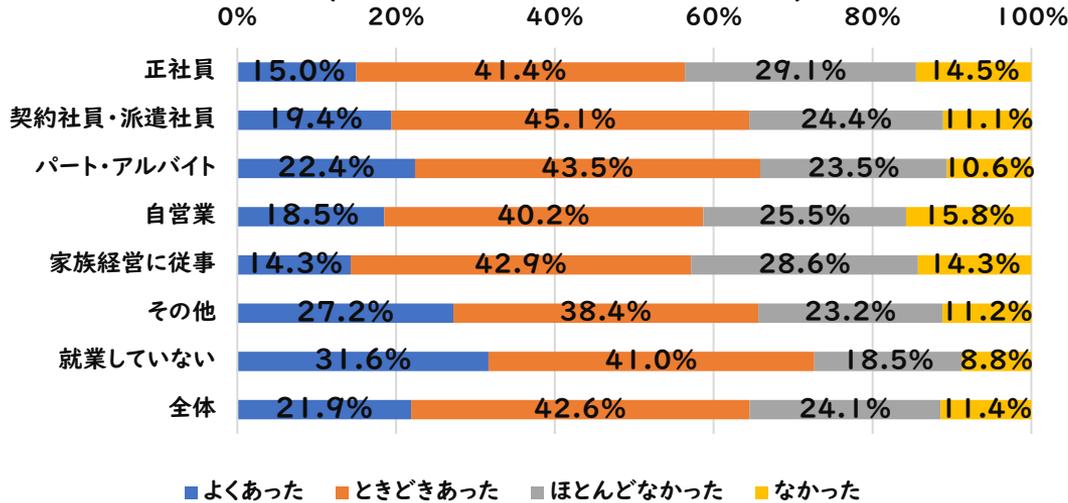
同じ立場の人の知り合いがいないと、孤独・孤立に陥りやすいのでは

他のひとり親の知り合いがいるか



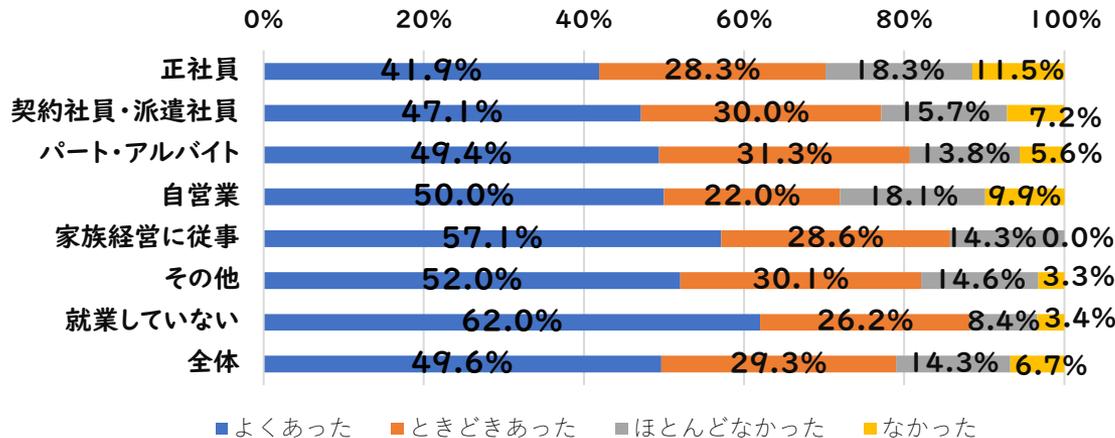
就労形態による差

食料(米などの主食を買えないとき)



お米が買えなかった経験は正社員では56%だが、パート・アルバイトでは66%に増え、就業していない人では73%にのぼる。

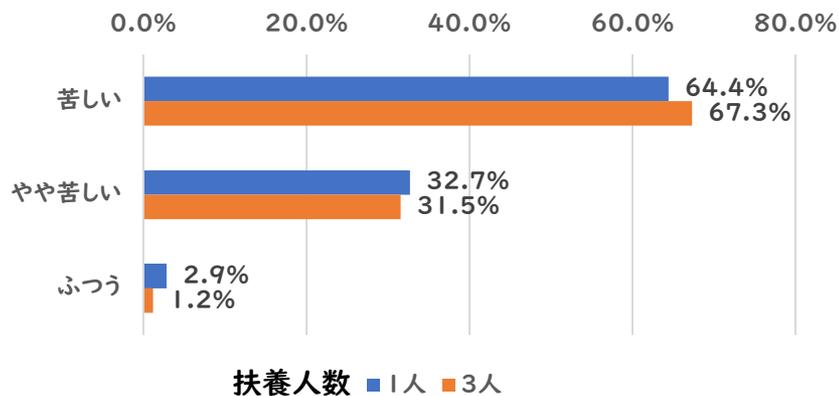
親の食事を1食抜かす



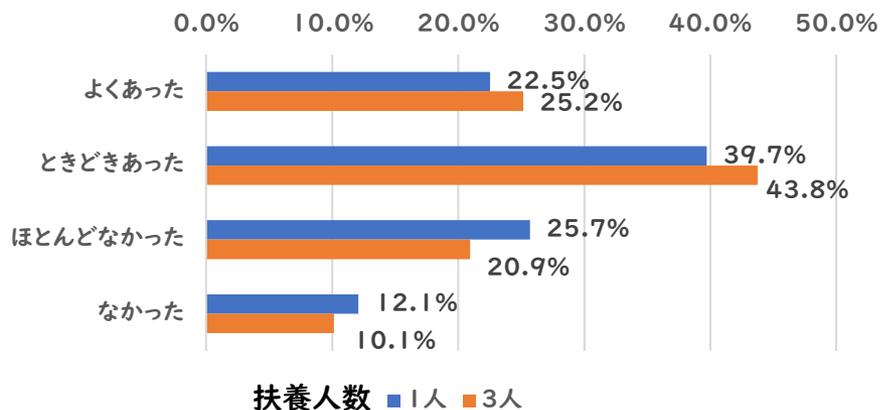
また「親の食事を1食抜かす」は、正社員であっても約7割、就業していない層では約9割が経験している。

子どもが多いほど困難

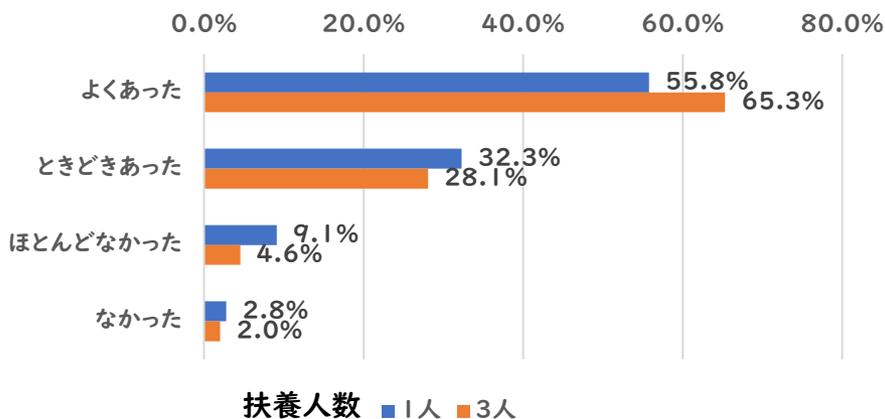
現在の暮らし向き



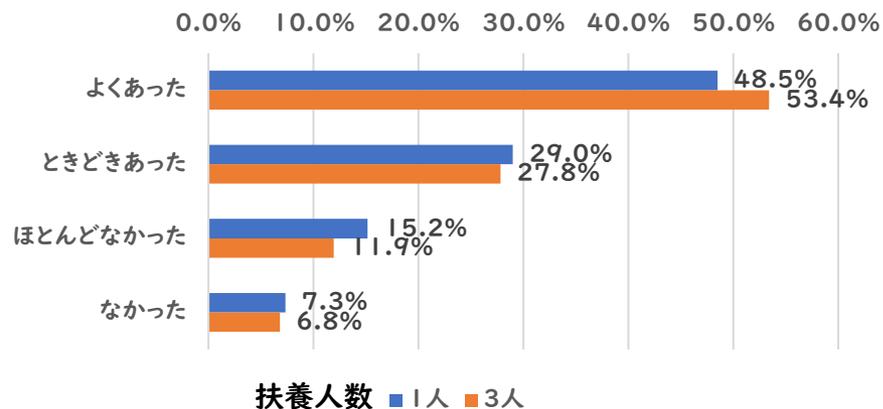
食料(米などの主食)を買えないこと



子どもの服や靴を買えないこと



親の食事を1食抜かすこと



食料支援を受けて お弁当を持って行ける ご飯のお代わりが言える

- みんなと同じ様にお弁当を持って行けるのはとてもありがたく感じています。
- 食べ盛りなので、いつもお腹が空いています。いつもはご飯のお代わりが言えなくて、モジモジしている時があり、気付いたとき声を掛けると「いや」と言うが、支援でストックがあるのが分かると「ある? いい?」とお茶碗を差しだしてきました。



体重が減らなくなった！ 学校、部活に行けるようになった

- 体重が減らなくなった。毎月お米をいただけて、1ヶ月はもたないけど、前のように半月くらい米が食べられないということが減ったからだとおもう。
- お腹が空きすぎて学校を休み家で寝ている事が多々あったのですが、支援を受けて空腹が満たされるようになり、覇気が出てきたようで、友達に会いたいからと、学校に毎日通う様になりました。
- 部活動をやめようとしていたが、続けられることになった。
- 夜中に空腹で目が覚めたりすることがなくなった。



お弁当が持たせられないときに息子はトイレにこもっていたが... おにぎりを持っていけるようになった

- 学校給食がないため、お弁当を持たせられない時は「トイレに籠っている」と以前、息子が言っていました。(食料支援の)お米が来るようになり、おにぎり一つでも持たせられるようになり、「トイレに籠ることがなくなった」と嬉しそうに言っていて、違った意味でショックでした。でも、お陰でクラスで仲間はずれになったりすることなく、学校に通えています。

(学校給食を全校で!)



自殺防止に役立っている 食料支援が命綱

- 自殺防止に役立っている。子供が一日2食以上抜くことを防ぐのに役立っている
- 食料品がまるっきりゼロになることがなくなった。
- 病気をして、休職。少しずつ働いていけると思っていたところ、復職を9ヶ月もさせてもらえず、不当解雇されました。生きる希望を失いました。食料支援が、本当に命綱になっており、私たち家族が生きる事ができております。お米でお腹を満たし、たまのお菓子やメイク用品で私たち親子の心が満たされています。私たちだって生きててもいいんだ。と思えました



家族のコミュニケーションに 物心両面で助けに

- 思春期3人を抱え、長い別居生活、地獄のように荒れている最中、支援の箱が届く時だけは4人集まって開封しました。その瞬間は皆笑顔で一番楽しい時間でした。世の中に助けてくれる方がいる、どんな気持ちで品を詰めて下さっているか、など話しながら、私は毎回泣いてしまいます。
- 思春期に入って、最近母親にまともに口も利かなくなっているものの、支援の箱が届くと、母子3人そろってから開けようと自分たちで決めて開けます。この時ばかりは、一つ一つ「わー」と喜んで開けていきます。お米やおかずになるものでおなかをすかせないで済む安心感が伝わってきます。また、普段は買えないお菓子は特に大喜びで、普段はけんかが絶えない双子ですが、この時ばかりは仲良く分けて楽しそうに食べます。物心両面で助けられています。

他の支援では...

- 今まで知っているフードパントリーは、助かりましたが、抽選ですので、今まで必ずもらえるところはないのでこちらに応募しました。
- 暴力を振るわれて離婚しており、逃げている状態です。住所や名前を記載する支援を利用した場合は、保護のために警察へどこへ個人情報を提供したか連絡しなければならず、DVによるPTSDがあることもあり、取りに行くタイプのフードパントリーなどは一切利用できておりません。

美味しいものばかり 車で取りに行けないので助かる

- こちらの食料支援では、美味しいものばかりで、本当に助かりました。お菓子も時々あるので、嬉しかったです。
- よく聞くフードパントリーや子供食堂は近場に全くなく、フードパントリーは車で1時間かかるところで、ガソリン代ももったいなくて行けません。なのでこの支援だけが頼りです。

